

今回の授業で豊太郎がどんな人物かを考え、相沢と比較することで、私は豊太郎の性格に問題があるのではないかと思うようになった。

そして、私が考えたのは豊太郎が相沢を憎むのは間違いであり、すべての責任は豊太郎自信にあるということだ。

豊太郎はいつも先のことを考えず、その場しのぎの行動をとる。

ドイツへは仕事で行っており、いずれ日本に帰らなければならないはずなのに、エリスを好きになったり、相沢に別れるよう言われれば別れると約束し、エリスがいるのにもかかわらずロシアへ行くのも日本へ行くのも誘われればすぐにそれに従った。

このように、豊太郎は明確な意志を持っておらず、いつもその場しのぎの行動をとる。

豊太郎自信、そして相沢はそのような豊太郎は弱い心を持っていると言っている。

一方相沢はそのような豊太郎の性格を理解した上で豊太郎に目的なき生活はするべきではないと言っている。このことから、相沢は豊太郎とは違い先のことまで考えることができる人であるといえる。

最後にエリスが病気になってしまったのは、一見、豊太郎が知らない間にすべてを告げた相沢に責任があるように思え、豊太郎が相沢を憎む気持ちもわかる気がする。

しかし、豊太郎がロシアにいる時に受け取ったエリスからの手紙には、エリスが豊太郎と共に日本へ行くことを母が許してくれたと書いてあり、豊太郎はエリスが日本について知られることを知っている。それにもかかわらず、大臣にそのことを言いもせず、すぐに返事し、後になって事の重大さに気がつく。

そしてエリスにどうやって告げようか長時間悩み、結局「我は許すべからず罪人なり」と感じていることから、豊太郎はエリスに日本へ行くことを告げないと決めたことがわかる。また、豊太郎は相沢に一応エリスと分かれると約束しており、相沢はただその事実をエリスに伝えただけである。たとえこれが相沢が豊太郎のためを思ってやったことではないとしても、豊太郎が約束したことは変わらない事実である。

以上のことから、豊太郎が最後に大切なものを失ってしまうのは、先のことを考えないで、その場しのぎの行動をとる豊太郎の弱い心が原因であり、自分でもそのような行動をとってしまうことを認識していながら、改めようとしないう豊太郎が最後に大切なものを失なわざるを得なかったのは必然的なことであつたといえる。

よって私は豊太郎が相沢を憎むのは間違いであり、すべての責任は豊太郎自信にあると考える。